



戸倉宿キティーパークに大型遊具設置

地域学習でふるさと戸倉の未来を考えた子ども達が、大型遊具設置を提案。千曲市と力を合わせ、昨秋設置されました。子ども達の夢がたくさんつまった遊具です。(戸倉小学校)

令和4年度新春対談…2～5

諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實さん 信濃教育会会長 武田育夫

第3回臨時総会報告…6～7

令和4年度全県研究大会報告…8

「ふるさとの大地」購読のご案内…9

川田文庫の紹介…10

退職校長会との懇談会…10

フードドライブ報告…11

リレー通信 わたし自慢④ 人との出会い 齊藤直明(西春近北小学校)…11

100年館の絵 美齊津 智(小井川小学校)…12

会員ひろば 青木 梓(諏訪市立豊田小学校)…12



2月の研修ガイド

18日(土) ●令和4年度 哲学対話 ◎長野上水内教育会館参集およびオンラインのハイブリッド

◇「哲学対話とは何か」梶谷真司(東京大学大学院教授)／講演と演習 ☆長野上水内教育会 026-226-2458

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等(講師名敬称略) ☆連絡先

新春対談

諏訪中央病院名誉院長

鎌田 實 さん

×

信濃教育会会長

武田 育夫



感染拡大防止のためオンラインで対談させていただきました。

鎌田 實 東京医科歯科大学医学部卒業後、諏訪中央病院へ赴任。30代で院長となり、潰れかけた病院を再生させた。「地域包括ケア」の先駆けを作り、長野県を長寿で医療費の安い地域へと導いた（現在、諏訪中央病院名誉院長、地域包括ケア研究所所長）。現在全国各地から招かれ「健康づくり」を行っている。

一方1991年より、チェルノブイリ原発事故の放射能汚染地帯へ100回を超える医師団を派遣し、約14億円の医薬品を支援。2022年3月現在、いちばやくウクライナ避難民支援を始動（JCF）。

2004年からはイラクの4つの小児病院へ4億円を超える医療支援を実施し、小児がん患者支援、難民支援を続けている（JIM-NET）。東日本大震災以降、全国の被災地支援にも力を注ぐ。

ベストセラー「がんばらない」、「鎌田式『スクワット』と『かかと落とし』」他、著書多数。

武田 私、今から40年程前に茅野の中学校に勤めておりまして、その時に先生と何度かお話をさせていただいたことがあります。今日は先生とお話できるということで本当にありがとうございます。こんな機会ができて光栄です。私の今日のテーマは鎌田実先生という人間を解剖していくことですので、よろしくお願いします。

鎌田 わかりました。解剖してみてください。

武田 小中学校の頃はどんな子だったんですか。

鎌田 僕は日本の教育力で救われたと思うんです。僕が親に捨てられて育ててくれた家も貧乏だということをたぶん先生はわかっていたんじゃないかという気がするんです。小学校の先生が夏休みの前に「鎌田、お前本好きだから、欲しいだけ選んで借りていっていいぞ」って言うてくれたんです。それがとっても嬉しくて2回も3回も読み直して、もちろん線も引けないし傷つけるわけにはいかないからできるだけ覚えちゃうってことをしました。僕が本を書ける人になったのはその時の先生が本を読むチャンスをいっぱい与えてくれたということが大きかった。もう一つは、小学校の時にその頃の文部省がIQテストをしたんです。先生方は子どもを数値でみたくないということでたぶん反対なさったと思

うんですが。その後「鎌田、職員室来い。お前あんまりIQ高くないぞ」って（笑）それはすごく印象に残りました。高校は都立の進学校だったんですけどもう桁違いにできる人たちがいることがわかったんです。小学校のときの「IQ高くないぞ」って言われたのが鮮明に思い出されました。貧乏から抜け出すためには、人の2倍は勉強しないとだめだなという自分自身への強い信念みたいなものをその先生のおかげでもつことができたかなと思います。

武田 なるほど。親や先生から勉強しろと言われるのは大嫌だったってことを本に書かれてますよね（笑）

鎌田 ははは（笑）今も誰かに何かされるのは嫌で。やっぱり人間にとって一番大切なものは自由じゃないかと思います。高校3年のとき父親から「うちは貧乏だから大学なんか行かなくていい。貧乏人は働けばいい」って言われたんです。何度も泣いたり騒いだりして、最終的には父が「お前に自由をやる」って言うてくれて。一番大切なものをちゃんと言葉で親から貰った。それ以来親はあんまり僕にああしろこうしろってことを言わなくなったんです。「自分の責任で生きればいい」って言われたんですね。言われると子どもでもちゃんと責任というものをもって生きようになっていくのかなと、自分の経験から思っています。

武田 先ほど都立高校へ行かれてという話をされましたけど、授業をさぼって麻雀をしていたというのは高校時代の話ですか。



鎌田 高校時代です（笑）

武田 ははは（笑）これ面白い話ですけど、どうだったんですか。

鎌田 僕は都立西校にいたんだけど都立立川高校に行っている小学校の時の同級生がいて、僕がその立川高校に電話すると職員室につながるわけです。「誰々君の家族が今病気で倒れたんで電話口に出てもらえませんかって（笑）麻雀一人足りないんで出てこいよ」とか言って。そいつも豪胆だなんて思うんだけど理由を言って抜け出したんですね（笑）で麻雀をやった。よく見つからなかったですね。もしかしたら大目に見てくれたのかもしれませんが。迷惑掛けない範囲だったらちょっととんがってるところがあったように思いますね。

武田 そうですか（笑）大学医学部を目指されるということで、当時から医学部って難しかったんじゃないかと思うんですけど。人の2倍勉強するっていうお話されましたけど、高校時代はかなり勉強されたんですか。

鎌田 基本的にガリ勉じゃないから1年2年はよく遊んだし映画も好きで見たし、剣道部に入って部活も一生懸命やりました。進学校だったから3年になると何となくみんなの目の色が変わっていく。そういう中で自分の人生を切り開くには自分の手で努力するしかないなという思いは強かったように思います。

武田 大学では家庭教師を2件掛け持ち、工場で守衛のバイトをしながら大学へ行ったということを書かれていますけど、そんな生活だったんですか。

鎌田 そう。その頃家庭教師は一人の子に週2回行っていたように思うんですね。月火水木と4日間のうちに2人の家庭教師をしていました。金曜日の夕方から月曜日の朝学校に行く時間まで工場の守衛のアルバイトをしていました。小説を読んだり医学書を読んだりして過ごしながら決められた時間に誰かが入り込んでいないかを見回っていくというのをしました。

武田 文字通りの苦学ですよ。

鎌田 あんまり苦学とは思わなかったですね。

武田 そうですか。学ぶってことは先生にとって楽しい

ことだったんですか。

鎌田 面白かったですね。夢中になる授業と夢中になれる授業とはあったんですけども。発生学という、我々はどこから来たのか、人間がどうやって生きてきたのかということを研究している解剖学者がいて、その先生の授業はかぶりつくようにしていました。最後の授業は、お母さんの子宮の中の胎児の話。お腹の中で初めは魚類に近いような格好をしていたり両生類に近い顔つきになったり、そして十月十日経ってお母さんのお腹から生まれてくる。子どもは時には大きい子も小さい子もいる。障がいをもって生まれる子もいる。頭のいい子もいれば頭の機能が良くない子もいる。でもすべての子どもは地球に命が生まれてから何十億年かの歴史をたどって生まれてくる。だから、君たち医者になる人間は全ての子どもは大切な命なんだ、いろんな問題を抱えている子どもも大切にみるんだぞということを教えられました。そのことが今も自分の中で脈々と生きているような感じがします。

武田 大学を出られて25才のときに長野県茅野市の病院に来られます。長野県に来る以前に長野県とのかかわりは何かございましたか。

鎌田 ほとんど何もないです。

武田 じゃあ先生、全然知らないところへ来られるってことですよ。



鎌田 そうですね。友だちもいないし親戚もいないし大学の先輩もいませんから。来る理由は医者がいなくて困っている。そこへ行った方が自分としては役に立つんじゃないかって思ったんです。

武田 周囲の方々は反対されたというふう聞いてますけど。

鎌田 そうですよ。都落ちするなって。東京へ戻ってこれないぞとか、将来偉くなるポジションはとれなくなるよっていうふうに言われました。

武田 そういう状況の中で先生が長野県の茅野市の病院に来る決意をされるものは何だったんですか。

鎌田 いや、どこでもたぶんよかったんだろうと思うんだけど。でも僕は怖いもの知らずだったので、なんか面白い人たちが少人数だけど集まって病院をよくしようとしていて、医者の数が足りなくて困っているんだしたら僕は行ってもいいのかなと思ったんですよ。

武田 面白そうだってことですよ。先生のお言葉をお借りすれば一生に一回の人生は面白く生きるためにあるって、そういうことですか。

鎌田 そうです。だから社会一般の得か損かっていう、お前偉くなれないぞと忠告をされてもあんまりピンとこない。面白ければいいんじゃないかって。たぶん親に捨てられて貧乏な家に貰われてずっとどん底を生きてきたから、まあなんとか生きられればそれでオッケーじゃないかなってところが自分の中ではあったように思います。

武田 そうですか。長野県あるいは茅野市に来られて最初の頃はどんな印象をおもちになられましたか。

鎌田 僕は初めからすごく大事にされたんです。僕みたいな若造がやっている外来におじいちゃんやおばあちゃんたちが面白いと言ってわんさか来るようになりました。長野県は脳卒中全国死亡率2位で、茅野市は市の中ではNo.1。不健康な市だったんですね。八ヶ岳山麓に公民館が93ぐらいあったんですけど、仕事が終わると、年間に80カ所くらい回ったんです。脳卒中で死なないように。そうするとおばちゃんたちがすごくいっぱい集まってきて面白がってくれる。仲良くなると今度は先生うちにご飯食べにおいでとか言ってくれました。そうやって一緒にご飯を食べて酒飲んだりするとそのおじさんたちが仲間の人たちに、行けば絶対面白いから人を集めろと言ってきて、どこの公民館も満員で人が集まるようになったんです。保健師や保健指導員さんなど市民のボランティアの方達がすぐ味方になってくれたのも大きかったですね。



武田 チェルノブイリ原発事故が1986年ですから先生がたぶん40才くらいの時なのかなと思います。汚染地帯に医師団を派遣したり14億円の医療品を支援したり。またイラクの小児病院へ4億円を超える医療品を支援したり難民キャンプで診療を続けたり。こういったお金は先生の印税や講演料などからも出しているっていうふうにお聞きしておりますけども。

鎌田 原資がないとなかなかスタートできない時に自分のお金を寄付するってことはあります。ですが、半年くらいでいろんな人が鎌田がやっていることなら悪いことはないんじゃないかと考えてくれる。自分が親に捨てられたけど、それでも何とか生きてこられたのはいろんな人のおかげなんだから、子どもが悲劇にあっているときには手を差し伸べたいと思うようにしているんです。きっかけに自分が少しお金を出せるときは出すと、いつも子どもに対してはやれる範囲で応援をしたいというふうになってました。

武田 私、前に先生と出会ったときに、確か車椅子のテニス全国大会を茅野に誘致して…。

鎌田 あー、よく覚えてますね先生。

武田 私写真を見せていただいた記憶があるんですよ。先生、30そこそこのときですよ。チェルノブイリからはじまって今ウクライナなど、誰かのためにずーっと何かをされてきてると思うんですけど。その思いはどこから来るんですか。



鎌田 僕が中学生用に書いた『相手の身になる練習』っていう本があるんですけど、みんながもうちょっと相手の身になったら世の中は変わるんじゃないか、いじめなんかもなくなるんじゃないか、みんなが過ごしやすくなるんじゃないかなって思います。それは一番は小学校しか出ていない貧乏の中で、自分の女房が重い心臓病なのに僕のことを考えて引き取ってくれた父がいたこと。相手の身になっていると僕自身もいろんな風が吹いて、結局人のためって思っていたけど回り回って自分の背中を押してくれる追い風をいっぱい受けてきたかなと思います。

武田 ありがとうございます。時間もおしてきたので、教育についてお話をお聞きしたいと思います。先生は今学校を回られて命の話をされているとお聞きしています。現在の学校とか学校教育についてどんなことを思われていますか。

鎌田 本当は毎年10校くらいは自分のライフワークとしてボランティアで命の大切さを伝えに行きたいと思ってやっていたんだけどコロナでそれができなくなっちゃったんです。学校に出入りさせていただいて感じてきたことは、特に若い先生・教師達が大変なんじゃないかなってことです。もっと若い先生が成長していけるような形にしていけないと。自分自身が日本の教育があったからこそ今があると思っているし、自分の子どももこの地域でお世話になって信濃の教育はすごいと。子どもを自由に、勉強だけではなく大切なものを教えてくれていると思っています。ただ学力という意味、つまり大学受験、難しい大学を突破する力っていう意味では信濃の教育はこの20年ぐらいで落ちてきてるんじゃないかなって心配しています。それはもっと根本のところでは若い先生が魅力のある職場だと思えるような改革をしていけないと。以前は信濃教育という全国に名を馳せたような教育が徐々にパワーダウンしていくんじゃないかって。今はその先代の人たちが頑張ったものを食いつないでいるんじゃないか。早く改革をして若い先生、教師達を大事にして、教育を面白がるということをしていくっていうのがすごく大事なことなんじゃないかなという気がします。

武田 ありがとうございます。伝統は常に革新をして成り立っていくもので、今のお話はしっかり胸に刻ん

でおきます。もう一つだけ聞かせてください。諏訪中央病院の看護専門学校の校長先生をされていたときに、人間が人間をみるということはどういうことか考えてもらいたいということで富永房枝さんを講師に看護哲学という授業をされたというのを本で読みました。

鎌田 そう。ふーちゃんは重い障害をかかえて手はほとんど動かないので箸を足にひっかけたりスプーンも足でひっかけてスープを飲んだり。そういう障がいがある人がお世話されるとか教育される側というふうに僕たちはつい思い込んでいたけど、そういう人も人間が育っていく上で大事な役割をもててんだって思います。障がいがある人から大切な何かを教えられることによって看護師の卵たちも、医師から教わるだけではない大切なものを教えられるんじゃないかなって思ったんです。

武田 なるほど。ありがとうございます。長野県の先生達にメッセージをいただけたらと思います。

鎌田 僕は子ども向けに『脱・呪縛』という本を書きました。みんなが誰かに縛られているっていう面もあるけど、むしろ自分で自分を縛っている面もあるんじゃないか。子ども達に自分で自分を縛るなど。もっと自由に生きていいんだってことを伝えたかった。これは子ども達だけでなく若い先生達にも、もっと自由に決められただけのことをするんじゃないかって自分の個性ある教育っていうか、ほんのちょっとここだけ5%だけはオレ流っていうのがあっていいんじゃないかって思う。残りの95%を誰よりもしっかりやることでオレ流の5%をもつ。そのことで教育は面白くなるし、そこで育った子ども達はすごく自由の大切さがわかってくるんじゃないかなって気がします。

武田 ありがとうございます。長野県の子ども達にもメッセージをいただきたいと思います。

鎌田 はい。やっぱり生きてるってことはすごく面白い。子ども達も生きづらい時代ですから大変な中を生きている人たちもいると思うけど、とにかく生きていること。それから工夫すること。工夫をしていると何か明るい光ってというのは見えてくるんじゃないかなと思います。その工夫の先には面白い人生が

あると子ども達には思ってもらいたいなと思っています。

武田 ありがとうございます。冒頭にお話ししましたように40年近く前に先生にいろいろお世話になって、病院に何度かお訪ねしてるんですけども、いつも先生は笑顔で明るくて穏やかでっていうのが本当に印象に残っていて、ああ、こういう人になりたいなっていうふうに強く思って今までやってきました。40年近くたって御礼言っちゃダメですね。

鎌田 はははは（笑）

武田 先生の夢とか希望とかこういうことをやるぞっていうのがあったらぜひ教えてください。

鎌田 先週東京で大きなシンポジウムをやって「子ども・子育て市民委員会」というのを作ったんです。この国の子ども達、今大変過ぎるんじゃないか。この国を子どもを大切にする国に生まれ変わらせないといけないんじゃないかと思っています。たぶん信濃教育会には共感してくれる教師たちが多いはずなので「子ども・子育て市民委員会」に注目してもらえればと。これが僕の最後の夢であり大仕事だと思っています。



武田 ありがとうございます。今先生がおっしゃるように信濃教育会は子どもを真ん中において教育をしていこうじゃないかっていう先人達がいる、それを元につくってきた会です。まあでも先生、組織って大きくなるとなかなかうまくいかないところがありますが…（笑）

鎌田 はははは（笑）

武田 今日先生からいくつかアドバイスをいただき激もいただいたと思っておりますし、今の先生のお話を少しでも実現していくことが私の恩返しかなというふうに思います。ありがとうございました。

インタビューの中で紹介されたご著書です
中高生向けに書かれた本です。

『脱・呪縛』 理論社 2018/12/15
『相手の身になる練習』 小学館 2021/4/1





信濃教育会の会員増に向けて

教職のよさや魅力、教育会の存在意義をPRしていこう

令和4年度第3回臨時総会を、11月29日（火）に信濃教育会館講堂において、代議員数50名中43名の出席者により開催し、7つの協議題について協議された。さらに「信濃教育会の会員増に向けて」をテーマに活発な意見交換がなされた。以下臨時総会の概略を報告する。

【武田会長あいさつ】

- 新型コロナウイルスの感染が広がり各学校で対応が忙しいことと思うが、そのような中ご出席に感謝。
- 『学事関係職員録』の注文数の経年変化を見ると右肩下がりに減少している。平成21年度から令和4年度までで約1,000冊の減。原因は明らかで個人の注文数が減少しているからである。
- 私たちが若いころは「これは買うものだ」と先輩に言われ注文をしたものである。昔は載っている情報も今より多かった。よくわからず買っていたがもうそういう時代ではないのだろう。一方で「令和4年度信濃教育会編集の教科用図書等に関する意見・要望」では、「重宝している」「大変役に立っている」「公務上活用させてもらっている」などなど、学校現場のお役に立っているようでありがたい。
- 公益社団法人である信濃教育会は認定等に関する法律により事業推進している。『学事関係職員録』は「収益事業」として行っている。「公益目的事業」は赤字でなければならないがそれを補助するための「収益事業」は黒字でなければいけないという制約がある。つまり『学事関係職員録』を作り続けるためには常に黒字にしなければならない。しかし現在注文数は減っており、昨年度の黒字は116,711円で年々減少の一途をたどっている。
- 対策として一つは値上げをすること。もう一つは注文数を増やすこと。できれば値上げをせずに注文数を増やしたい。個人で買ってもらうのが厳しいことは承知している。購入を勧めるにもいろいろ気を遣う。ついては、できれば校用を各学校1冊増やしていただけないか。校長室だけでなく保健室や研究室へ置くでもいい。各郡市教育会で持ち帰って伝え是非ご協力願いたい。他県では職員録はもうほとんど作れなくなり売れなくなっている。そうならないよう、是非ご理解いた

だき、今後も作っていただけるようご協力願いたい。

【協 議】

- (1) 令和4年度事業の成果と課題・令和5年度の事業の方向
- (2) 令和4年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ
- (3) 令和4年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ
- (4) 令和5年度予算編成方針（収入見込み）
- (5) 令和4年度臨地講習・基礎講座の成果と課題
令和5年度臨地講習・基礎講座の予定
- (6) 令和4年度信教全県研究大会の実施報告及び令和5年度の信教全県研究大会について
- (7) 今後の会員増の取組

【報告・連絡】

- (1) 第137回信濃教育会総集会更埴大会基本構想
- (2) 令和4年度第26回教育研究論文・教育実践賞の募集
- (3) 第74回日本連合教育研究大会山口大会及び東京大会参加報告
- (4) 「信教会長と語ろうー若手教員の視点で信濃教育会事業を考えるー」の実施報告
- (5) 退職者名簿の提出について
- (6) 学事関係職員録新規システムへの移行に向けて
- (7) 生活科・総合的な学習の時間実践誌「ふるさとの大地」の発刊について

【意見交換】

テーマ「信濃教育会の会員増に向けて」

- 信濃教育会や郡市教育会の魅力や取り組みの良さ、先生方のための研修の素晴らしい機会があるということをよくPRしながら共に学んでいく、同じ仲間として

盛り上げていこうという繋がり。結果の会員増でありたい。令和5年度の新しい講座にリフレッシュという内容が入っていた。今の教育会は先生方のニーズによっていろいろ変革もできるし自分たちで参画しながらより良きものに変えていける。そういうことも伝えていきたい。

- ベテランの活躍どころもキーワードにしていきたい。全県研究大会も若手がやっているがベテランの力のある先生が行ってベテランも意識を高めたら良いのではないか。講師の先生方、市町村費の先生方や産育休中の先生方にも声をかけていきたい。
- 先生方が教育会の存在意義や大切さを十分に知らない、伝えきれていないということがあるのではないかな。年度初め、準備職員会等で、紹介できるよう武田会長のプロモーションビデオを撮影していただいて、それを県下の学校で流せるようなそういう資料があるとありがたい。
- 信教の活動の良さやメリットをしっかりと知ってもらうことが大事。参加者の感想等、SNSも利用しながらしっかりと発信していくということが大事ではないか。
- 信濃教育会の研修の良さは、専門的な研修ばかりでなく、書道や臨地講習、教師塾Bといった裾野を広げる研修があるところ。研修会の様子やPRビデオ等を職員室でちょっとした時間に流したり先生方が直接メール登録して情報を得たりSNSのフォロワーを増やし周りに広げたりしていけると良い。
- 信濃教育会の一番の存在意義は先生方の研修に寄与するということ。免許更新制度が廃止になるが研修を提供してくれる団体として信濃教育会というものがあり県や市の研修と合わせて研修を選択できるという良さがある。県、市町村、教育会の研修がそれぞれの特色や強みを生かしていけると良い。
- ICTやHPの活用を促したい。信濃教育会のHPに入れば情報が受け取れる、困ったときには信濃教育会のHPを開く、そこで繋がり合ったりそれぞれの郡市や県内の情報をもらえたりする場でありたい。
- 会員増の鍵は40代から50代前半の先生方。この先生方をターゲットにした研修講座を設けるのはどうか。メリットはすぐ出るものではないが信濃教育会に入れば、研修や全県研究授業の場に手を上げる機会が増える、全県の先生方と繋がりあうことができる、そんな良さも会員に伝えられるのではないかな。
- 年度当初の忙しいなか異動者に対して十分に話ができないので異動前が大事ではないか。また夫婦割や家族割りのようなものはいかがか。
- 年度の最初が大切。信濃教育会についてよく知らな

かった、説明されたことがない、誘われたことがなかった、ということもなくしていきたい。職員研修の大切さを伝えながら勧誘をしたい。

【閉会のあいさつ】

- 研修とは何か。多くは専門職になるための技能や知識を身につけることである。できていない自分自身を見つめることにもなる。しかしそればかりではつらいのではないかな。若手の教職員と語る会でも話題になったように1日研修にきてリフレッシュし元気になってもらうような研修もある。時にはそれが次に向かって行く力になることもあるのではないかな。信濃教育会も県も市町村も、研修とはこういうことができるようになるためのものというものが多い。先生たちが普段話せないお互いの思っていることを吐き出してリフレッシュすることも良いのではないかと考えている。
- 安曇野市で、青年教師委員会を今年新たに作り、自分たちの研修を自分たちで作出す、その会の第一回目に呼んでいただいた。自分のような立場で失敗談など話すと若い先生方も安心する。みんな歩む道なのだと感じる。このように、若い先生方が集まって話すことも研修と言えるのではないかな。ある種の知識や技能を身につけるだけでなく、次に向かうエネルギーをつけることも研修ではないだろうか。信濃教育会のこういう研修の方向を大事だと言っていただけたようでありがたい。
- 常任委員会で伊藤かおるさん（コミュニケーションズ・アイ代表取締役社長）に講演していただいたときに、「子ども達の保健室はあるが先生たちの保健室は果たしてあるのか」と言っていた。先生方が日々苦労している、がんばっている、ストレスを抱えている。そういうものを抱えて駆け込む保健室があるかと言われたときにはとした。信濃教育会や郡市教育会は、先生たちが集まって研修をして助け合う場なので、先生方の保健室であれば良いと強く願う。
- 若い人たちで教員を目指す人が少なくなっている。信州大学の1年生と話をしたが、彼らが心配しているのは、教員になってずっとやっていけるのかということだった。マスコミに叩かれ保護者に責められニュースになってしまう教員も多い。実際には長野県の学校現場はとても環境が良いと思う。先生方も良い人が多い。こういうことがきちんと伝わっていないと思う。長野県に来れば、みんなで支え合って力を合わせている。このことをアピールすることが長野県で先生になる人が増えることに繋がるのではないかな。もっとPRをして、もっと多くの方に伝えていきたい。

令和4年度 全県研究大会報告

1 授業者・研究校

<個人型>

公開日	授業者・研究校／共同研究者
10/27 (木)	早津 秀（屋代中学校） ／村瀬公胤（麻布教育研究所所長）
10/28 (金)	小林京介（三郷中学校）／伊藤純郎（筑波大学教授）
	小松拓磨（辰野西小学校） ／岩田 靖（信州大学教授）
11/ 1 (火)	村松崇志（篠ノ井西小学校） ／岩田 靖（信州大学教授）
11/15 (火)	小田切洋輔（長沼小学校） ／吉永紀子（同志社女子大学准教授）
11/17 (木)	田中孝弘（伊那小学校） ／苫野一徳（熊本大学准教授）
11/18 (金)	藤原賢志（会田中学校） ／新井 仁（都留文科大学准教授）
11/25 (金)	篠原義光（佐久市立東中学校） ／永田潤一郎（文教大学教授）

<学校型>

公開日	研究校／共同研究者
11/ 1 (火)	裾花小学校／奈須正裕（上智大学教授）
11/ 9 (水)	若穂中学校／杉田 洋（國學院大學教授）
11/10 (木)	富県小学校／秋田喜代美（学習院大学教授）
11/15 (火)	飯田西中学校／田村 学（國學院大學教授）
11/17 (木)	松川小学校／岩川直樹（埼玉大学教授）
	長野市立南部小学校／佐藤和紀（信州大学准教授）
11/22 (火)	梓川小学校／森下 孟（信州大学准教授）
11/25 (金)	中野小学校／小国喜弘（東京大学大学院教授）

2 参加人数（延べ人数）

・一般：353名（昨年より120名増） ・役員（信教関係）：94名 計447名

3 研究推進・研究全般にかかわっての成果と課題（運営面も含む）

①研究の立場（授業者，研究校）

○本年度から形態を大きく変え「授業者・研究校の公募（立候補，推薦）を行う」「指導者に替わる共同研究者を置く」「自主性，独自性のある研究にする」こととした。その結果，個人型8つ（内推薦1）学校型8つ計16研究が公開となった。現場では，おおよそ肯定的な受けとめをしていただいた。

○共同研究者は希望や紹介によって決定し，研究過程では大きな力添えをいただいた。

◇これまでの「研究大会」のイメージが残っており“自主性，独自性に対する意識”“共同研究者のかかわり”などに戸惑いを感じられた。打ち合わせの段階で共通理解を図る。

②研究の進め方，研究内容

○研究の過程は，それぞれの授業者と研究校の計画の基に進められた。共同研究者が訪問しての研究会には研究調査委員も参加した。またオンラインによる研究会をもっていた。授業者や研究校の求めるものと共同研究者の求めるものとのすりあわせが難しいところも若干感じられた。

○研究内容（テーマなど）については，ICTを活用しての授業づくりや個別最適化学習についてなど，現在クローズアップされていることに視点をあてたものが多かった。また，リフレクションによる授業分析や子ども理解も多くあった。学校型では，地域性を活かした学校づくりにかかわる研究が行われていた。

◇ICTの活用など取り上げたときに，ツールとしての活用方法に焦点が当てられてしまい，それによって「子どもたちがどのように育っているのか」の検証が今ひとつ，という指摘があった。教科（教科等）の本質，願う子どもの姿を十分にふまえた研究も考えたい。

次年度も「子ども自らが、心ゆくまで探究する」をベースとなる授業観として、会員が互いに学び合える研究大会を目指していきます。

信州の生活科・総合的な学習の時間 実践誌

ふるさとのでき

第26号発刊 購読のご案内

編集 公益社団法人 信濃教育会

B5判/本文72ページ/カラー口絵4ページ

発行1月末日 定価 500円(税込)

テーマ 「ふるさと」になる

■ 特集

- ・三百年後に「ふるさと(集落)」を引き継ぐ
～人は財産 集落は舞台 そこに暮らすみんなは主役～
合同会社「小滝プラス」代表社員 栄村公民館長 樋口正幸氏

- ・総合的な学習ブック『ふるさと栄』を足がかりにして
～栄村への「ふるさと観」を育てたい～

栄村教育委員会教育長 下 育郎

■ シリーズ

⑨ 生活科・総合的な学習と学力

～ヤギとのくらしを共に創った担任と教え子が、当時を振り返る中でみえてくるもの～

大藪勝先生の信州大学教育学部附属長野小学校時代の実践

■ 県内各地の生活科・総合的な学習実践事例、コラム、実践ライブラリーなど

【実践事例】

- | | |
|---|-----------------|
| ★栄村の加工用トマトを「守りたい」(中学2・3年) | 栄村立栄中学校 實原泰介 |
| ★ハッピー&スマイル ～みんなが笑顔で幸せになれる場所～(1・2年) | 千曲市立埴生小学校 大日方政之 |
| ★そめものって楽しいね ～子どもたちの花に向けるまなざしから教えてもらった二年間～(1・2年) | 箕輪町立箕輪北小学校 安田 望 |
| ★「一緒」だから楽しい ～スマイルマーケットの歩み～(3・4年) | 木祖村立木祖小学校 吉沢信也 |

【コラム】

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| ★復旧・復興 ～わたしたちにできること～(中学1年) | 長野市立東北中学校 楠 直樹 |
| ★ホタル池にもっとホタルを飛ばしたい！(4年) | 東御市立滋野小学校 大月美怜 |
| ★コロナを乗り越えろ！ 6の1ピザ作り大作戦！(5・6年) | 諏訪市立豊田小学校 渡邊慶子 |
| ★ふるさと白馬の雪を守ろう(中学1～3年) | 白馬村立白馬中学校 降旗尚樹 |

●内容についてのお問い合わせは…

馬淵勝己(豊科東小 校長)・清水令子(古里小 校長)・高見澤津久美(上田立豊殿小 校長)・池上浩人(箕輪町立箕輪南小 校長)・山岸澄雄(美麻小中 校長)

●ご注文は、しんきょうネット各営業所まで

***** FAX でのご注文は、フリーダイヤル 0120-25-1098 *****

北部営業所 TEL.026-284-5541・中部営業所 TEL.0263-47-6629・東部営業所 TEL.0268-23-1152・南部営業所 TEL.0265-81-0361

発行



一般社団法人

信州教育出版社

TEL 026-232-0291 FAX 026-232-5058
<http://www.shinkyo-pub.or.jp>

川田 殖 先生より蔵書を寄贈いただきました

信濃教育博物館に川田殖先生（元山梨医科大学教授，元日本聾話学校校長）より大切にされていた蔵書402冊を寄贈いただきました。川田先生が若い頃より学び研究されてきた原典が多く今では入手困難な貴重な書籍ばかりです。川田先生は何度も信州を訪れ，人間とはどういう存在か，人としてよく生きるとはどういうことなのか，教師としてどうあるか，ということを信州の教師たちに問いかけ熱くお話をいただきました。



▲プラトン全集全5巻（原典及び英訳）

今回の寄贈にあたり川田先生より下記のようにメッセージをいただきました。ソクラテスやプラトン全集などの西洋哲学から中国思想，印度思想，西田哲学など日本の思想まで多岐にわたります。教育博物館で閲覧できますのでぜひご覧ください。

献げることば

川田 殖

私は若い時から「よい本を読め」と教えられてきました。また「よい本は買え」ともいわれてきました。その上「できるだけ原典（よりどころになるものや書物）を読め」とも勧められてきました。そんな心でこの七十年あまり，求めた本も少しばかりたまりました。哲学・宗教の古典がその中心です。

また私はこの四十年ばかり，信州の先生がたとの交わりをいただき，多くのことを教えられました。そしてその先生がたの自発的研修共同体ともいべき信濃教育会にもいろいろお世話になりました。これらの恩澤は私の人生の宝です。このような先生がたや教育会が，これからもますます成長し，大切な使命を果たされるようにとは私の心からの希いでもあります。

そのために私のできることは些少ではありますが，私の蔵書の中から，お役に立ちそうな原典を献呈して，心ある方がたに利用していただくのはと考えるようになりました。ふだんからお世話になっている中村芳人先生にご相談したところ，お受けいただくことになり，また当時の後藤正幸会長先生，かつての小市正輝「信濃教育」編集長先生にもおいでいただき感謝にたえません。

日常の激務に忙殺されている先生がたに原典とはいささか現実離れとも思われますが，人生のより処・思想の座標軸を確立しようとされる方がたには原典が無用でないことを希い，たとえ一人でもそのお役に立てば満足この上もありません。

(2022,6,20)

退職校長会との懇談会

12/7（水）退職校長会の役員の皆様と懇談会を実施しました。信濃教育会の取組みや課題を報告し，職能向上のための灯は時代が変わっても大切にしていくことや先生方にとって元気の出る研修にしていくことなど信濃教育会への期待や熱い思いのあふれる懇談となりました。



輪が広がるフードドライブ

信濃教育会の2階にフードドライブコーナーがあるのをご存じですか。信濃教育会では、家庭で余っている食べ物を持ち寄って、地域の福祉団体やフードバンクなどへ寄付する活動をしています。最初は会員のみなさんだけでしたが、最近は地域にお住まいの方からもたくさん寄付していただくようになりました。ちなみに“ドライブ”とは、“寄付”という意味です。

12月21日には、長野県社会福祉協議会にある「長野県フードサポートセンター」にお届けしてきました。担当の方からはお礼の手紙をいただきました。



深沢幸栄事務局長にお渡ししました

食料をご寄付いただき、ありがとうございました。

「むすびや」にある食料は信濃教育会様にいただいたものをはじめ、地域住民から寄付していただいたものや企業より届けられたものがたくさんあります。

寄贈された食料は、主に長野市社会事業協会フードバンクが行っている個別配送を通じて生活困窮者支援に利用されています。そのほかに児童養護施設や自立援助ホームなどの福祉施設、地域振興局を通じて「こども食堂」に来る親子にもお届けしています。年末年始は、生活困窮者の方へ多くの支援が必要となるので、ご寄付いただいた食料は、さっそく支援食料として使わせていただきます。

信濃教育会のみなさま、地域のみなさま、ありがとうございました。今後もいっそうのご支援ご協力をお願いいたします。



わたし自慢 ④

人との出逢い



西春近北小学校 齊藤 直明

私には他と比べて長けていると感じるものがない。学生時代、定期テストで100点を取ったことは1度もないし、小中高と続けたバスケットボールも大成せず、何事でもどこか惜しい結果を残すことばかりだった。そんな私が「わたし自慢」の執筆をすることとなり、「ネタ探し」のために私のこれまでを振り返ってみることにした。

やはり何度振り返っても「わたし自慢」は見当たらない。しかし、良き人たちとの出逢い。これこそ



がきっと私の人生を支えている、私自身の強みであるに違いないと感じるようになった。全ての出逢いを

挙げ出すときりがないが、特に現在勤務している西春近北小学校では、小規模校のこじんまりとしたアットホームな雰囲気の中、素直で明るい子どもたち、尊敬できる先生方、温かな保護者の方々に囲まれて過ごしている。

今年度は教育課程の授業者を担うことになったが、担任を務めるさくら組の子どもたちに支えられて乗り切ることができた。もちろんその裏には、研究部会を中心とした先生方の大きな支えがあったことに違いない。今年度は教育課程を中心に多くの人から刺激を受け、自分自身を高め、成長し続けることができて1年になっている。だからこそ、自分自身が1番地道に努力し続けなければならないと感じている。

きっとこれからの人生も多くの人に支えられて生きていこう。出逢うすべての人への感謝の思いを込めて、ひたむきに生きていきたいと思う。

予告



実践から見えてきたこと

「令和の日本型学校教育」を考える

「神社を描こう!」と題して、制作を
始めました。本校の隣の「諏訪神社」
に構図のバリエーションをプラスし
て、私の自宅近所にある「諏訪大社」
を題材に加えました。
指導にあたり、意識したことは三つ
で、一つ目は、色塗り練習です。作品
の制作中は、主に「ほめる」のみで進
めたいので、色塗りのアドバイスは練
習の時だけにし、線を引いたり、円を
塗ったり、練習用の家を塗ったりと何

枚かグラデーションで塗る練習をして
から神社の絵に入りました。二つ目
は、パレットには、常に全ての絵の具
(色)を出しておくこと、三つ目は、
各自に画用紙に近い大きさの神社の写
真を用意したことです。
作者の美咲さんは、「狛犬の顔がう
まく描けない。」と言って、自由に、
自分の好きな狐の顔に挿げ替えていま
した。(笑)

指導者
美齊津 智 (小井川小学校)

100年館の絵

令和3年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「諏訪大社 秋宮」

城戸 美咲 (上松小6年)

信濃教育博物館所蔵

会 員 ひ ろ ば

人生の縮図

私が山登りを始めたきっかけ
は、山が大好きな友人の影響でし
た。2年半前、コロナ禍で家にい
る時間が多いなか、その友人は登
山に誘ってくれました。

山頂でコーヒーを飲みながら、
友人に「山のいいところはどこな
ところ?」と尋ねると、「人生の
縮図」と答えました。



登山中は長い登山道を自分の足で一步步歩いて行きます。登り始めが一
番辛くて、途中で引き返したくなることもあります。一生懸命歩いて、山
頂が見えていても、まだまだ遠い。私はペースがゆっくりなので、追い抜か
されることもあります。それでも、ペースを崩さないように進んでいきま
す。山頂についたときには、自分でも登れたという達成感とご褒美の絶景が
広がっています。

いつか自分の人生を振り返ったとき、山頂の絶景のような人生のご褒美を味
わえるように、今は自分ができるところをコツコツと積み重ねていきたいです。

(諏訪市立豊田小学校 青木 梓)

教職員川柳

大笑い クラス紹介 ビデオ撮り
「火星」より 民の豊かさ 考えて
この一年 山あり谷あり 終わり良し
便利だね 魔法の言葉 「家事都合」
(きききじん)
(きききじん)
(きききじん)
(四蔵法師)

※令和四年度の応募は〆切りとさせていただきます。

投稿はメールでお願いいたします。kaihou@shinkyo.or.jp

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。

